

菰野藩藩祖土方雄氏・三世雄豊・九世義苗公の肖像画掛け軸



見性寺所蔵

菰野藩祖土方雄氏の掛け軸・讚

孔明（諸葛）丹青（絵画）の神（神髓）に至らざるを咄す（叱る）。精質は三軍（全軍・右・中・左）を屈す。仁冠・義服・威稜（威光）・赫々百世に剩る。榮（栄光）ある、桓（柱）今天（今日、現在に及んでいる）

人、各々其の祖を祀り、其の形体の由つて生ずる所を重んずるなり。粵（ここに）土方故将作監（官職唐名）源雄高公、乾父（義父）見性院殿前丹州刺史堅翁宗固大居士の為に此の禪園を権与（創建）して廟塋をつくる。其の令子（子息）朝散大夫（従五位下）東市令（市正）雄豊公、又追つて厥（そ）の真影（肖像）を尽くし以て当山に釈尊（せきてん）す（奉納した）。蓋し目観心存の誠を尽くさんと（目に見る物心にある物によつて真心を尽くそうと）欲するものなり。

貞享四丁卯歳（一六八七）季夏（陰曆六月）念八（廿八日）鳥（昔の官名）見性四世住持静水素撲謹んで讚す。

見性四世住持静水素撲謹賛

貞享四丁卯歳季夏念八日

之誠者也

以釋眞當山蓋欲盡目觀心存
東市令雄豊公又追盡厥眞影
而爲廟塋矣其令子朝散大夫
堅翁宗固大居士權與此禪園
爲乾父見性院殿前丹州刺史
也粵土方故将作監源雄高公
人各祠其祖重其形體取由生
孔明咄丹青寫不至神精
賢屈三軍兵仁冠義服威稜
赫々德澤剩百世榮桓々天



三世土方雄豊の掛け軸・讚

後素（絵画）本物を写し出す。

木に徒がうは真に非ず。（木像は本物ではない）
此れ何の形相ぞ

笏を執る搢紳（衣冠束帯の高官の姿）

（以上16文字が雄豊自製の讚）

（以下は和尚の讚語）

人生の一世に於ける鮮やかなり。始め善く、終り善し。

惟うに通霄院殿前備州太守玄峰孤頂居士は土方四世（豊義公）府公（父）なり。

令せずして民和して、戦わずして兵（敵兵）屈す。（屈服す）是れ善く隆（隆盛）を始むるものなり。又、後素（絵画）をして手ずか

ら一幅の寿影（生前作成する肖像）を尽くし

自ら十六讚詞（十六字の賛）を製す。是れ善く終り洪（大きい）なるものなり。然る後、手筆図上を荏苒（延び延びになり）終に逝し

は其の溢徳（余徳）の垂ること無窮なるの謂か。（無窮ということか）令嗣（跡継ぎ）豊義公、予に告げ以て通霄院が書き残した空

白に）予、拒辞する（お断りする）恭しく鼠髯（鼠の口ひげで製した筆）を震うも模糊（ぼんやりしている）たりと云う。（揮毫した

がボンヤリしているという）

宝永七龍集（歳の意味）庚寅、夷則（陰曆七月）三十日 現住見性黙宗祖鑑、謹みて誌す。

後素寫出
從本非真
是何形相
執笏搢紳

人生之於一世鮮矣善始善終惟
遺賢院殿前備制大守玄峰孤頂
大居士土方四世之府公也今
而民和不戰而兵屈是善始隆
也又今後素手畫一幅壽影自製
十六頌詞是善終洪者也然後款
手筆之圖上荏苒終逝者其涸涸
全無窮謂予今願源豊義公告予
以代寫予不違拒辭恭震鼠髯
糊々

寶永七龍集庚寅夷則三十日
現住見性黙宗祖鑑誌



